



平成29年5月9日(火)
校長通心 No.4 校長 馬渡教三

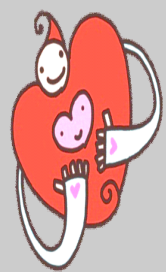
行為の意味 (宮澤章二)

あなたの「こころ」はどんな形ですか
と ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれどほんとうに見えないのであろうか

確かに「こころ」はだれにも見えない
けれど「こころづかい」は見えるのだ
それは人に対する
積極的な行為だから

同じように胸の中の「思い」は見えない
けれど「思いやり」はだれにでも見える
それも人に対する
積極的な行為なのだから

あたたかい心があたたかい行為になり
やさしい思いがやさしい行為になるとき
「心」も「思い」も初めて美しく生きる
それは人が人として生きることだ



『恕の精神』=相手の身になって思い、語り、行動すること! 己の欲せざるところ人に施すことなかれ

今日の生徒朝会に時間をもらい、文武両輪&絆シャフトの絆シャフトでつける力の一つめ、『恕の精神』についてプレゼンした。この『恕(じょ)』という字は、たまに『怒(ど)』と間違われることもあるけれど、学校だより(校長通心)の題に使わせてもらっているお気に入りの、そして、心の支えとしている字である。…この「恕」は、朝会で話させてもらったとおり、孔子の『論語』にまつわっている。論語は簡単に言うと、孔子が弟子たちの質問に答えるかたちでやりとりされている会話集であるけれど…、例えば弟子が「私は先生のおっしゃることは素晴らしいと思いますが、力が足りないのではなかなか実行できません。」と言うと、「お前は力が足りないわけではない。もし本当に力が足りなかつたら途中で倒れてやめるだろう。今、お前は自分の力が足りません」と言い訳をすることで、自分で自分の限界をつくってしまい、全力を尽くしていないだけではないか?」……という感じである。

さらに、この孔子さんは「天」という言葉を大切にされた人で、「天」というものを、空とは違うけれど上方にあって、この世を動かしている大きな力、宇宙全体を動かしている力みたいなもの…と捉えていた。だから、「天命」というのは、天から与えられた命令という意味で、自分は何をやるために生まれてきたのだろう?自分が生まれてきた本当の意味は何なのだろう?と自分の胸の奥に問いかけてみるのが大切だと説いた。つまり「天」というのは、頭上の彼方にあるものでありながら、心の奥にある性根玉(しょうねだま)のようなものだったと予想される。

孔子さんは弟子たちに『仁』(人を慈しむ心、慈愛、慈悲)については繰り返し語っていたのだけれど、『恕』は、論語全150章の中に、たった一か所しか出てこない。それは、一番弟子の子貢に「人として一生貫き通すべき志があれば教えてください」と質問されたとき、「それはすなわち『恕』である。」つまり、「相手の身になって思い、語り、行動することだ」と答えた部分である。たぶん、孔子は、『仁』の究極の姿を『恕』と考えていたのかもしれない…そのとき、一番弟子の子貢ほどの人物でも、恕の概念をどう捉えてよいかわからず……「でも、相手の気持ち分からないときはどうすればいいのだろう?」と迷い、自分自身に置き換えて「もし、自分だったらこんなときどう思うのか?どんなことを語ってもらいたいのか?どんな行動をしてもらいたいのか?」と考えた。そうすることで、何となく方向が見えてきそうになったが、もし、自分には何でもないことが、相手にはとても嫌なことだったり、自分には大嫌いなことが、相手には大好きなことだったりしたらどうしよう?つまり、善かれと思ってしたことが裏目に出て「ありがた迷惑」だったり「余計なお世話」になったりしたらどうしよう…と悩んでしまった。これが、『恕』を理解するときの難しさだと思う。ゆえに子貢は「己の欲せざるところ、人に施すこと勿れ」(自分が嫌なことは他人に仕向けるな!)と解釈したのではないだろうか?孔子が弟子たちの能力や性分に合わせて、手を変え、品を変え指導することができたのは、弟子一人一人の気持ちが手にとるようにわかり、個性を知り尽くすまでの域に達していたからなのだろうけど、普通の人には難し過ぎることである。

『恕』は、一般的に「自分を思うのと同じように相手を思いやる」とか「許す」と解釈されているが、孔子の考える『恕』は、何回も触れたように「人の気持ちがわかるようになること、相手の身になって思い、語り、行動することができるようになること」を指しているのだから、自分の身に置き換えて考えるのはまだ半人前だし!ということであり、自分の身になって置き換えてみることをできない人は、半人前以下である!!と言っているように聞こえてくる…。

この間、生徒会長の西村君が「思いやり提言」を全校生徒の前で確認してくれた。インターネットトラブルからお互いの身を守るために八戸市の中学生全員が守ろう!と提言したものだ。ネット時代の今だからこそ、「恕の精神」は大切な大切な性根玉のひとつだと思う。ネットの怖さは①相手が誰かわからない。②24時間攻撃される。③身体は傷つかないけど、心がズタズタになっていく。④いじめる側はゲーム感覚でエスカレートしていく。⑤不特定多数が参加していき、内容も消すことができない。⑥匿名性という甘えの中で無責任な言動が助長される。⑦文字情報だけで相手の本当の意図がわからない。⑧瞬時にターゲットが変わる…。など、あげればきりがなし。とにかく「悪意」を持ってそのスキルを使用すれば、簡単に相手を傷つけることができちゃう。だからこそ、自分のしようとしている行為がどんな結果をもたらすのか?相手にどんな痛みや悲しみを与えてしまうのか?という、「相手の立場に立って考えてみる力」を持たなければいけない。もし、相手を死に追いやってしまったら、一生償うことができないのだ。「自分はふざけて書き込んだだけ…」では許されない行為になるということを肝に銘じなければいけない。「自分がされて嫌なことは絶対にしない」という、恕の精神の半人前レベルだけは、湊中生全員が今日から守り、行動に移していかなければならない!それが、絆シャフトをぶっとく強靱にしていくことにつながっていく!! 頑張ろう!!

